

七度生まれ変わった覚海上人

高野山大学教授 図書館長 下西 忠

高野山増福院の門前に「覚海大徳翔天之舊跡」と大きな石碑がありますが、それは覚海が仏法の護持のため天狗になって、中門の扉を翼にして天に飛び去ったという伝説によって書かれたものです。高野に登山した谷崎潤一郎がこの伝説をもとに『覚海上人天狗になる事』という小説を書きましたが、鎌倉時代の仏教説話集『沙石集』には、検校覚海が七度生まれ変わったという前生譚が書かれています。前生とは、この世の中に人間として生まれ変わる以前に生を受けていた世の意で、前世のことをいいます。

覚海は貞応二年（一二二二）八月十七日、八十二歳で亡くなりました。武家が台頭し、保元の乱、平治の乱を通して平氏が実質上の政治的実権を貴族から奪い取った時代、さらにその平氏が源頼朝に敗れ、西海の藻屑となり滅亡していった世の激動期を生きた人物でありました。また承久の乱の顛末をも見聞したのであることを考えると、覚海は、ある意味で日本の大きな激動期にその生涯を生きることになります。また彼の没年、貞応二年といえは、延慶本『平家物語』によれば、平氏の象徴ともいえる平清盛の女、建礼門院（高倉天皇中宮、安徳天皇母）が波瀾万丈の生涯を閉じた年でもありました。

覚海は建保五年（一二一八）に高野山の検校になり、承久二年（一二二〇）検校の職を

辞しました。高野山の検校までのぼりつめた覚海は、前生を知ろうと弘法大師に祈念したところ、大師は彼の七生、つまり天王寺の海の蛤であったのが、あるきっかけで犬となり、さらに牛、そして馬になって熊野詣をし、さらにすすんで最終的に高野の検校になっているのだと告げたというのです。舍利讚歎の声、誦経、念仏、陀羅尼などの声を聞くたびに転生していったというのです。天王寺から熊野、そして高野というルートはさまざまな想像をかきたてますが、ここでは紙面の都合ではぶくことにいたします。

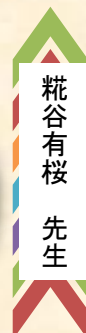
天仁三年（一一一〇）大安寺で行われた百数十日間の法談を記した『百坐法談聞書抄』に悪業のみつくる男の前生譚が伝わっています。閻魔王の前に連れていかれた男は、法華経を読んだ功德でもって現在僧侶となっていると答えると、閻魔王はこの男の七生の先の事を知らなかったと恥じて、いよいよ仏法を修行せよと帰したという話があります。何事においても結縁は空しからずということでありましょうか。

お箏コンサート

十一月六日に図書館閲覧室におきましてお箏と三味線のミニコンサートを開催致しました。演奏者して下さったのは、三味線を森崎雅好先生(本学助教)。

そして、お箏を糀谷有桜先生(本学非常勤講師)と卒業生の山村恵里さんが演奏してくださいました。

- 曲 目
- ① 都踊り みやこどり
 - ② 春の光
 - ③ 瀬音 せおと
 - ④ 六段の調 ろくだん しらべ



糀谷有桜 先生



森崎雅好 先生



山村 恵里さん

第4回戸田文化講座「読書の町、高野町をめざして」

十一月 十九日に高野山大学308号教室におきまして第4回図書館文化講座を開催されました。講演をして下さったのは、高野町副町長・和歌山

県公共図書館協会理事の中島紀生さんと高野町中央公民館図書室司書の橋本奈理加さん。とても興味深い講座で沢山の参加がありました。



中島紀生さん



橋本奈理加さん

2013年 12月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2014年 1月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

	9:00-21:30		13:00-21:30
	9:00-17:00		休館日

第6回戸田文化講座

「西行の「あはれ」

—高野山で詠んだ和歌を中心に—

日 時: 1月15日(水曜日)

17時～18時00分

場 所: 高野山大学本館

3階 308号教室

講 師: 下西 忠先生

(高野山大学図書館長)

問合せ先: 高野山大学図書館

(電話 0736-56-3835)

※事前申込不要、直接会場へ

おこし下さい